

川内原発で事故が起きたら…1

この地図は、早川由紀夫（群馬大学）氏の「福島第一原発から漏れた放射能の広がり」（四改訂版2011年9月11日）を利用し、川内原発に当てはめてみた図です。

実際に大事故が起きれば、汚染の広がり、事故の状況・風向き・地形・天候等により大きく違います。

作成：宮崎の自然と未来を守る会／2011.10

四訂版2011年9月11日（初版4月21日）
 著者：早川由紀夫（群馬大学） kipuka.blog70.fc2.com

福島第一原発から漏れた放射能の広がり Radiation contour map of the Fukushima Daiichi accident

2011年3月に地表に落ちた放射性物質がそのままの状態で見られる場所の放射線量で色分けしました。芝生など草地で現在計測される数値です。この数値は3年で半分になります。

- 8 $\mu\text{Sv/h}$ 以上
- 4 $\mu\text{Sv/h}$ 以上
- 2 $\mu\text{Sv/h}$ 以上
- 1 $\mu\text{Sv/h}$ 以上
- 0.5 $\mu\text{Sv/h}$ 以上
- 0.25 $\mu\text{Sv/h}$ 以上
- 0.125 $\mu\text{Sv/h}$ 以上 ※ $\mu\text{Sv/h}$ (マイクロシーベルト/時)

